



平成 19 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社ラックランド
代 表 者 名 代表取締役社長 望月 圭一郎
(コード番号 9612 東証第 2 部)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 大竹 隆一
(TEL 03-3377-9331 (代表))

平成 19 年 12 月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 12 月期（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）の通期業績予想について、平成 19 年 8 月 3 日付け当社「平成 19 年 12 月期 中間期・通期業績予想の修正に関するお知らせ」において発表いたしました平成 19 年 12 月期 通期業績予想を下記のとおり修正いたします。
なお、配当に関しましては、当初計画とおり期末配当金 15 円（年間配当金 15 円）を予定しております。

記

1. 平成 19 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 19 年 1 月 1 日～平成 19 年 12 月 31 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	15,000	380	400	225
今 回 修 正 (B)	13,000	0	30	15
増 減 額 (B - A)	△2,000	△380	△370	△210
増 減 率	△13.3%	—	△92.5%	△93.3%
前期 (平成 18 年 12 月期) 実績	14,649	425	468	202

2. 修 正 理 由

【売上高】

売上高は 13,000 百万円と前回予想に比し 2,000 百万円（13.3%減）の減少となる見込であります。

なお、売上高の修正理由は次のとおりであります。

(1) 既存顧客からの受注高減少

当社の主要顧客である飲食料品小売業界及び外食業界の中堅企業は、大手企業の資金力を武器とした出店攻勢に加え、首都圏における地価（賃料）上昇により、出店意欲はあるものの出店候補地の確保が非常に困難な状況にあります。そのため、中堅企業の多くは、出店計画の変更（出店延期・中止）を余儀なくされ、あるいは出店計画を実現させるべく地価（賃料）上昇を反映した設備投資額の減額を断行しております。

このような状況において、当社はニーズの高い不動産物件紹介や設備投資額削減提案などのサービス提供を重点に受注活動を展開してまいりましたが、既存顧客の出店計画の変更（出店延期・中止）が相次ぎ、第 4 四半期においても同様の傾向が見られ、大幅な受注減となる見込みであります。

(2) 大型施設施工案件の受注見送り

当社は、第 4 四半期に大型施設（結婚式場など）約 800 百万円の受注を見込んでおりましたが、設備投資額が見合わず、施工品質を確保することが困難な状況と判断し、品質第一主義の方針のもと、当該大型施設の受注を見送りました。

(3) 大型施設施工案件の設備投資額の減額

当社は、主要部門であるスーパーマーケット関連部門及びフードシステム関連部門の受注高減少を補い、顧客層を拡大すべく、営業開発部門にてリノベーション事業を主体とする企業への受注活動を展開し、温泉施設等の受注を実現（第 3 四半期実績 167 百万円）いたしました。

第 4 四半期においても、複数のプロジェクト案件 施工の引合いを受けておりましたが、プロジェクト投資規模 約 250 百万円の縮小が決定し、受注額が大幅に減額する見込みとなりました。

【営業利益・経常利益】

当社は、施工工程の各作業の内製化による外注委託比率の通減を通じた粗利率の向上、並びに諸経費節減の継続実施による販売管理費比率の低減に努めてまいります。

しかしながら、上述の理由による売上高減少に伴い、営業利益は 0 百万円と前回予想比 380 百万円の減少、経常利益は 30 百万円と前回予想比 370 百万円（92.5%減）の減少となる見込みであります。

【当期純利益】

上述の理由により、当期純利益は 15 百万円と前回予想 210 百万円（93.3%減）の減少となる見込であります。

以上